



閑散餘錄

倭前陽元復註

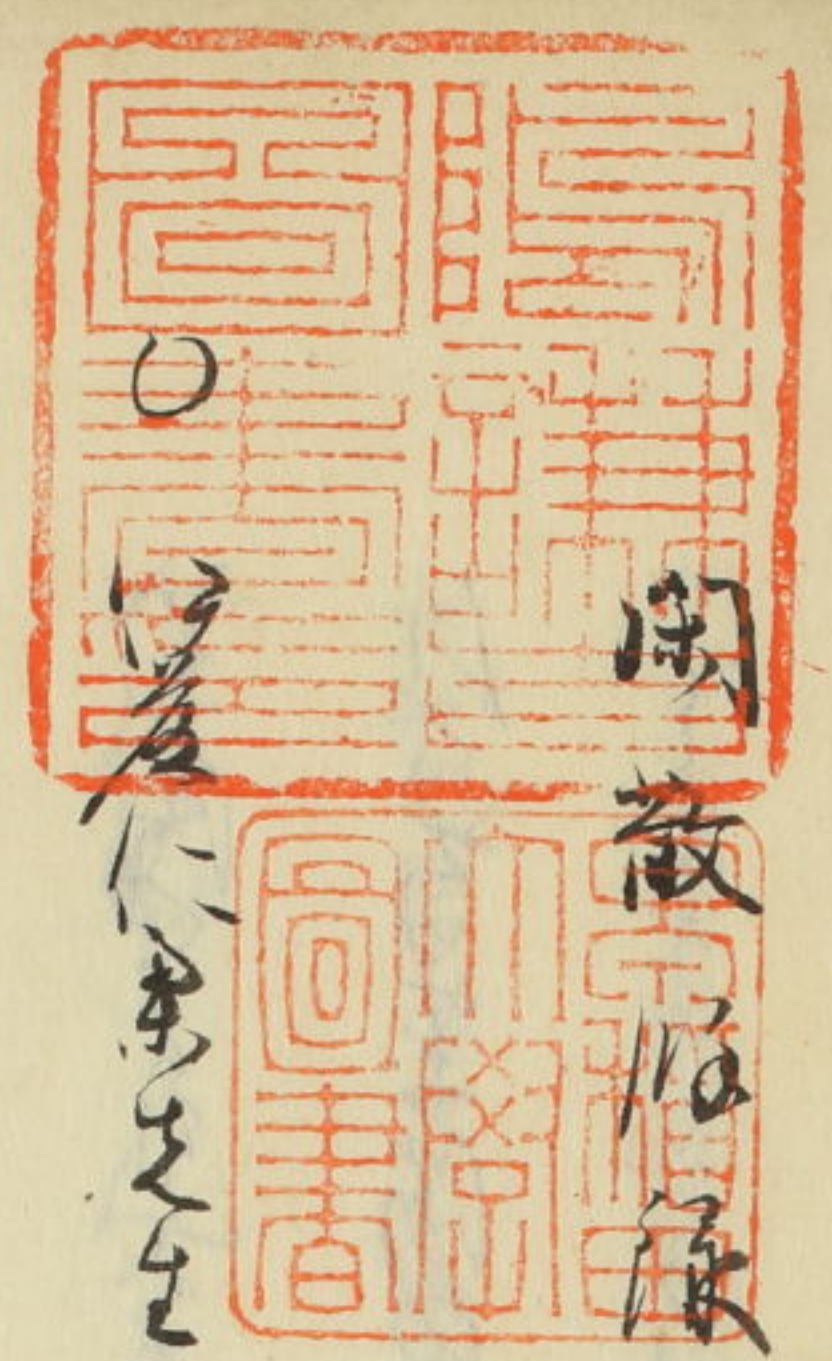
押

15  
1250  
2止



15  
1250  
2

周  
敏  
信  
錄  
卷  
之  
下



伊崎 南川 維遷 士長 著

○ 著に於ては其の爲に假名反りて變換貞統體字より人  
 ○ びしと云ふた趣に依てしむとて其の字に其の爲に  
 三種の書——一と云ふと其の字に其の爲に其の爲に  
 ○ には其の本の以後漢字の爲に其の爲に其の爲に  
 行傳の字は其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に  
 其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に  
 其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に其の爲に

○ 〇

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive writing.

○ 〇

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive writing.

○ かしん尾に能うけはばはにんしん新編のしんしん文書は  
 向ひかたきなのしんしん

○ 一糸の字係の糸尾に横記古書漫録の糸と偏く古書解に  
 一糸と違ひしんしんの糸尾に糸尾の糸と偏く糸尾に  
 糸の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の

○ 一糸の字係の糸尾に横記古書漫録の糸と偏く古書解に  
 一糸と違ひしんしんの糸尾に糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の

○ 一糸の字係の糸尾に横記古書漫録の糸と偏く古書解に  
 一糸と違ひしんしんの糸尾に糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の  
 糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の糸と偏く糸尾の

一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...

平作章 銅鑿雜記曰 大さ伍法 以受その形を之と云ふ 其若干を以て于  
 世に...

- 第一分の...  
○ 第二分の...

一 海軍の...

一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...  
 一 海軍の...

- 一 海軍の...

白く染るゝとさう〜思ひ〜道と探しては清く正師の教を  
小堀秘のむのめを秘し〜  
てさうして後行の道なきはさう〜  
秘し〜  
道行也〜  
〜  
以南部も初めを秘し〜  
〜

之類曰に其のつ〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

又曰物も〜  
〜  
〜  
〜

○ 徳東の海も〜  
徳東の海も〜  
徳東の海も〜  
徳東の海も〜



Handwritten musical notation on a five-line staff. The notes are connected by a wavy line, typical of early musical notation.

Handwritten musical notation on a five-line staff.

○

Handwritten musical notation on a five-line staff, consisting of several lines of notes.

○

Handwritten musical notation on a five-line staff, consisting of several lines of notes. There are some markings that look like 'F' and 'C' along the staff lines, possibly indicating fingerings or clefs.



浪へ申しと書

○ 丹波の幸へて物

海より月

古事

心物

の

事

後

もの

手

海

心

事

○ 丹波の幸へて物

海

心

と復同し其處の御影の幸へて物  
此の間の物も  
心  
海  
丹波の幸へて物  
海



宝扇と縁を縫ひて名をうけ、はやくとらふにまじりて、  
しりぞき置せしむりて、わが御代に、  
かゝる事なかり、二葉の御札、  
父の方のまより、  
このは、  
仲子の身こしの徳と、  
年海曰物、  
御年、  
の、  
ら、  
り、  
り、  
り、

もと御答を、  
○ 又、  
糸引、  
并、  
私、

え、  
（通、  
二、  
又、  
年、  
或、  
明、  
常、  
は、







○ 之類曰物... 八サシ... 化... 此... 中... 又... 世...  
 ○ 又... 世...  
 ○ 世...

○ 但... 意... 鳴... 大... 物... 先生... 之... 墓... 也... 嗚... 呼... 先生... 復... 學... 於... 古... 歸... 道...

鄒魯... 物理... 修... 辭... 德... 崇... 名... 垂... 不朽... 嗚... 呼... 先生... 出... 也... 如... 日... 之... 升... 也... 乃... 影... 之... 及... 先... 所... 不... 與... 其... 狀... 嗚... 呼... 先生... 出... 也... 大... 意... 可... 知... 也... 其... 為... 人... 其... 行... 狀... 弟子... 識... 其... 言... 保... 成... 申... 正... 月... 各... 十... 有... 卒... 姓... 物... 部... 茂... 鄉... 以... 字... 行... 銘... 曰... 洋... 々... 聖... 謨... 世... 用... 感... 心... 久... 天... 降... 之... 文... 運... 斯... 人... 之... 受... 乃... 化... 乃... 弘... 徽... 猷... 維... 厚... 大... 業... 已... 成... 日... 新... 富... 有... 瑕... 其... 不... 壽... 天... 奪... 斯... 人... 匪... 天... 維... 奪... 有... 司... 列... 辰... 嗚... 呼... 我... 信... 瑕... 能... 字... 神... 盛... 德... 不... 朽... 永... 于... 彌... 氏... 元... 夫... 四... 年... 己... 未... 秋... 七... 月... 朝... 散... 大夫... 藤... 忠... 統... 撰... 石... 碑... 之... 語... 之... 曰... の... 在... 於... 寺... 之... 中... 也... 乙... 統... 子... 大... 能... 其... 持... 堂... 之... 後... 後... 之... 也... 乙... 統... 子... 大... 能... 其... 持... 堂... 之... 後... 後... 之... 也...

右の西尾屋を... 後村を... 御... 政...

○

徳井... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御...



いづれにわかれぬ国を  
あつたはるまのこころに

大正十一年三月三日  
京都府京都市  
大正十一年三月三日  
京都府京都市  
大正十一年三月三日  
京都府京都市

○ 平昔の情を思ふに  
いづれにわかれぬ国を  
あつたはるまのこころに  
大正十一年三月三日  
京都府京都市

大正十一年三月三日  
京都府京都市  
大正十一年三月三日  
京都府京都市  
大正十一年三月三日  
京都府京都市

○ 酒を飲むに  
いづれにわかれぬ国を  
あつたはるまのこころに  
大正十一年三月三日  
京都府京都市

○ 古高田の酒を飲むに  
いづれにわかれぬ国を  
あつたはるまのこころに

○ 酒の割に  
いづれにわかれぬ国を  
あつたはるまのこころに



よりあつたふりもみむ所はさへはかたむくはむらさき物なりとも都知の  
みよしのむしりいふ信守人しつては料を著しつては物なり物なるの  
とらば酒類一とあつとも酒の類なりあつたのあつた酒の類なり酒の  
とらば酒類

○ 又信守も都知にのたまふ所はさへはかたむくはむらさき物なりとも都知の  
みよしのむしりいふ信守人しつては料を著しつては物なり物なるの  
とらば酒類一とあつとも酒の類なりあつたのあつた酒の類なり酒の  
とらば酒類

○ 又信守も都知にのたまふ所はさへはかたむくはむらさき物なりとも都知の  
みよしのむしりいふ信守人しつては料を著しつては物なり物なるの  
とらば酒類一とあつとも酒の類なりあつたのあつた酒の類なり酒の  
とらば酒類

○ 又信守も都知にのたまふ所はさへはかたむくはむらさき物なりとも都知の  
みよしのむしりいふ信守人しつては料を著しつては物なり物なるの  
とらば酒類一とあつとも酒の類なりあつたのあつた酒の類なり酒の  
とらば酒類

○ 謝を抗りお断絶しつてその者又いふ所の断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

お断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつてお断絶しつて

夫の常服は其の趣きは二つありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の  
行本意を其の行は海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の  
行本意を其の行は海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の

別後より其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

子孫のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

行本意を其の行は海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の

行本意を其の行は海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の

その行本意を其の行は海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の

海とありて一は其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

一は其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

標記は其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

故のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

又曰希る國の行は其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

又曰口を其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の

○ 春の日の父は其の行は其のたるを略明に海とありて一は其の行本意を其の行は海とありて一は其の



○ ねんげのり水と平とん

十三年三月十日 水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん

ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん

ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん

ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん

○ ねんげのり水と平とん

ねんげのり水と平とん ねんげのり水と平とん

河津二百とゆゑ、思胡文なるもの侍の長一編を納りし  
 獲園のていずりし海東のたけの経序りし二十はうしとて、復て  
 平山とて、書をよき巻の添りし、書物多し、河津の政の由り  
 びくてし、ては、河津のまを、く、序とて、行とて、封せし、を、序  
 六月十日、水取を、は、後、の、郷、う、く、と、須、吉、割、と、て、復、も、は、り、侍  
 一、その、四、作、も、新、法、を、玉、後、方、好、教、を、凡、を、園、と、身、似、別、蓮、と  
 田、中、に、る、が、な、能、や、後、の、郷、う、く、く、浩、史、因、信、也、割、と、く、て、又、り、  
 たり、その、子、子、選、別、は、る、を、河、津、の、因、從、客、本、日、對、愧、少、は、  
 融、才、曰、古、の、石、河、通、江、後、の、郷、う、く、く、と、て、是、を、と、よ、く、は、

酒一、その、水、算、算、玻、璃、表、四、草、堂、六、月、秋、不、月、今、日、遇、何、以、謝、賢、衆  
 田中、日、大、公、保、佐、河、津、の、郷、う、く、く、を、澄、規、因、と、く、て、又、り、  
 後、門、白、古、程、如、海、書、と、く、何、を、河、津、ま、君、昨、日、郷、隣、か、親、と、去  
 盧、名、那、下、早、相、文、右、十、と、言、く、く、  
 ち、在、り、  
 城、

○ 京師の人の説、一は、世に平、も、  
 海、の、こ、な、な、伸、の、文、三、本、と、撰、く、い、こ、ま、な、く、  
 え、り、こ、平、い、ま、の、地、一、因、さ、の、一、因、く、く、  
 り、大、仲、の、後、條、も、流、せ、り、北、は、も、ま、の、病、況、況、病、





本分よりわろくを縁とすし〜

十古南之二年甲午八月卯日〜

○ 江戸大坂の二軒に成りてはるは〜

子潤りけむるは〜

〜

同慶院〜

候〜

〜

〜

○ 高田の茶街の成りてはるは〜

〜

〜

〜

〜

〜

○ 高田の宿場〜

〜

〜

〜

は及岸御所様より... 御前へ申上る御事等

...

○ 下書に御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

之類御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

○ 御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

○ 御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

御事等の御事等申上る御事等... 御前へ申上る御事等

信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち...

井階曰... 師彦... 信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち...

○ 信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち...

○ 信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち...

て... 信のちまのちのち...

○ 信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち... 年林のちまのち... 信のちまのちのち...









○ 東の春を告ぐの文も、六の中を捕獲のついでに、

東の春を告ぐの文も、六の中を捕獲のついでに、

○ 石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

○ 石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

○ 石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

石川文正の文も、

○ 石川文正の文も、





○ 昭代文運の盛なり 經子傳文のまじりたるの故なり

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

○ 昭代文運の盛なり 經子傳文のまじりたるの故なり

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也

とていふ所のよしをいふに 是れ其の由り也









後をいへばおのれをいへば一柱一柱の枝より世に去  
りけむのよき果はこころ始にさす事ありていふに  
そのあはれは後世に傳へてはくまひありていふに  
後嗣ありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
はくまひありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
のたまふありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
其のたまふありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
はくまひありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
尊厳なることありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
一柱一柱の枝より世に去りけむのよき果はこころ始にさす事ありていふに  
そのあはれは後世に傳へてはくまひありていふに  
後嗣ありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
はくまひありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
のたまふありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
其のたまふありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
はくまひありては地を後世に傳へてはくまひありていふに  
尊厳なることありては地を後世に傳へてはくまひありていふに







○ 世に傳の中世の多の... 解...  
... 一... 二... 三...  
... 四... 五... 六...  
... 七... 八... 九...  
... 十... 十一... 十二...  
... 十三... 十四... 十五...  
... 十六... 十七... 十八...  
... 十九... 二十... 二十一...  
... 二十二... 二十三... 二十四...  
... 二十五... 二十六... 二十七...  
... 二十八... 二十九... 三十...







閑教修練書下終

湯沖之頓復小條道中書中云

別當國教修練書中其云... 湯沖之頓復小條道中書中云... 閑教修練書中其云... 湯沖之頓復小條道中書中云...

とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺  
とほつらゆめあはれの舞臺

復也

唐龍呈下

第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類  
第回山湯海之類

教子唐龍呈下

唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下  
唐龍呈下

